

港湾空港関係の評価項目調書

事業名	徳山下松港 新南陽地区 多目的国際ターミナル整備事業	事業主体	中国地方整備局																		
再評価の必要性に関する視点	<p>ウ) 貨幣換算しなかったが定性的に評価できる事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 陸上輸送及び海上輸送の効率化に伴う排出ガスの減少 (CO₂ 19.6トン/年、NO_x 0.5トン/年) 背後圏立地企業の物流効率化及び国際競争力の向上に伴う地域産業の安定・発展 浚渫土砂を有効活用した干潟造成に伴う環境修復及び環境保全 <p>工) 事業の進捗状況</p> <p>1. 主な経緯</p> <table border="0" data-bbox="411 604 1104 842"> <tr> <td>平成 9年 4月</td> <td>岸壁(水深12m)</td> <td>着工</td> </tr> <tr> <td></td> <td>埠頭用地</td> <td>着工</td> </tr> <tr> <td>平成14年 4月</td> <td>航路・泊地浚渫</td> <td>着工</td> </tr> <tr> <td>平成17年 3月</td> <td>岸壁(水深12m)</td> <td>完了</td> </tr> <tr> <td>平成18年 9月</td> <td>事業再評価実施</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成30年代</td> <td>岸壁(水深12m)</td> <td>供用開始予定</td> </tr> </table> <p>2. 事業の進捗状況 工事の進捗状況 現在の工事の進捗状況は21%である。</p>			平成 9年 4月	岸壁(水深12m)	着工		埠頭用地	着工	平成14年 4月	航路・泊地浚渫	着工	平成17年 3月	岸壁(水深12m)	完了	平成18年 9月	事業再評価実施		平成30年代	岸壁(水深12m)	供用開始予定
平成 9年 4月	岸壁(水深12m)	着工																			
	埠頭用地	着工																			
平成14年 4月	航路・泊地浚渫	着工																			
平成17年 3月	岸壁(水深12m)	完了																			
平成18年 9月	事業再評価実施																				
平成30年代	岸壁(水深12m)	供用開始予定																			
事業進捗の見込み	事業の進捗率は、21%である。今後は予算の重点投資をするなど、早期供用を図って行く予定である。																				
コスト縮減や代替案の可能性	岸壁整備に新技術を導入することでコスト縮減を図った。																				
今後の対応方針	事業継続 本事業は十分な投資効果及び進捗の目途が確認されるため、本事業を継続することとしたい。																				

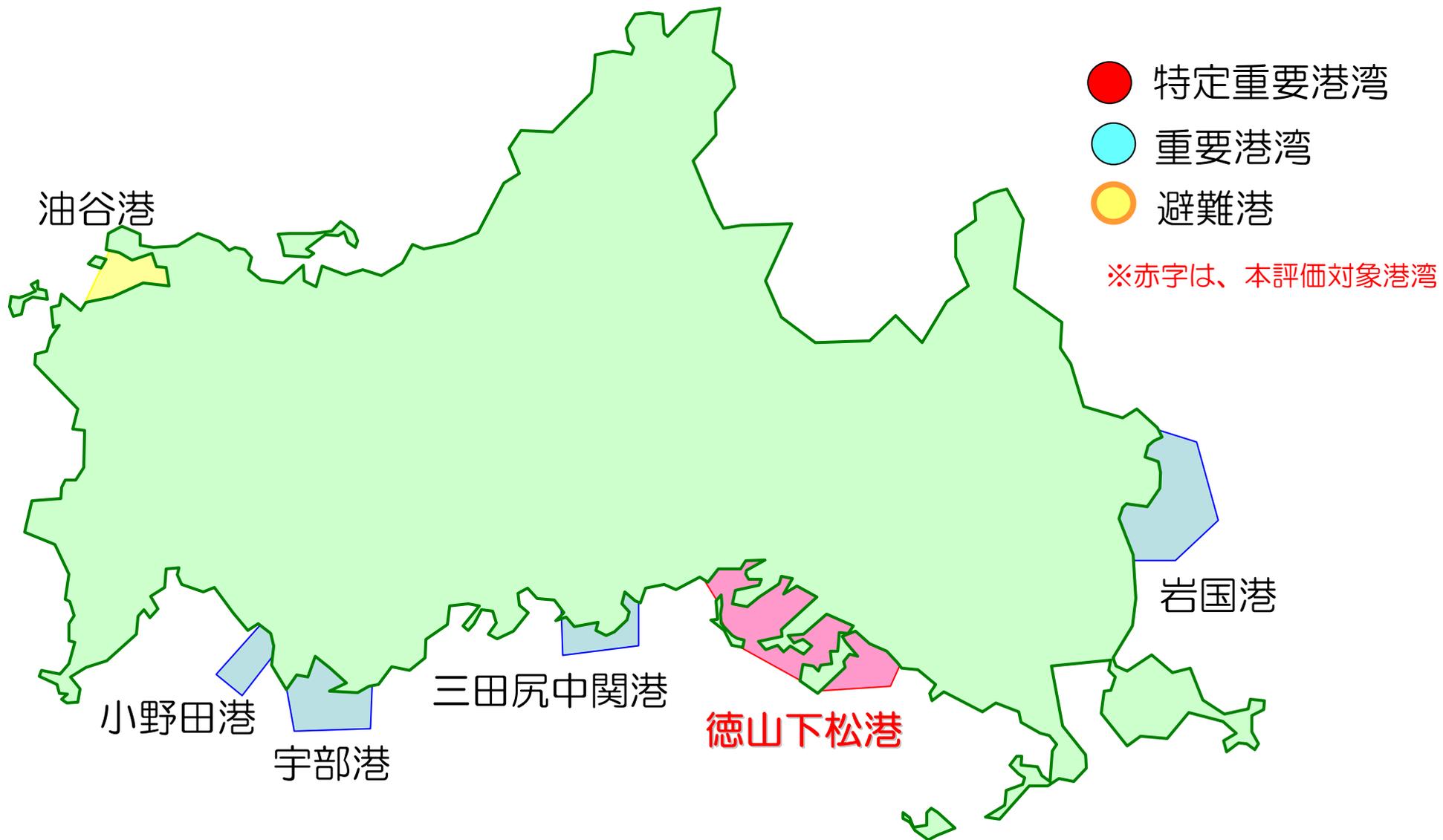
徳山下松港新南陽地区 多目的国際ターミナル事業再評価



平成18年9月

国土交通省 中国地方整備局

1.事業位置図

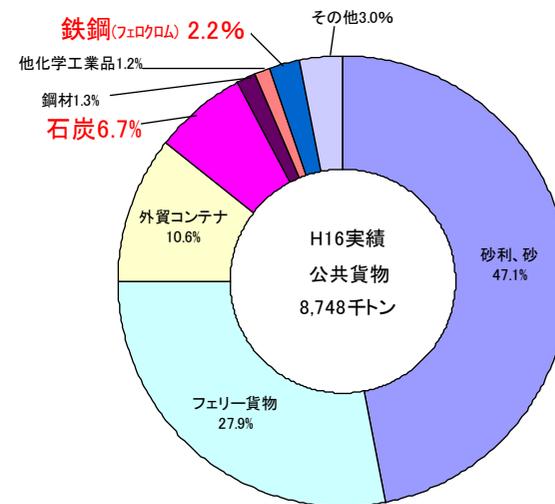
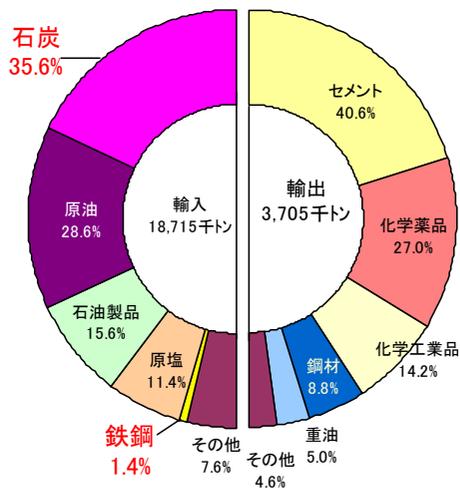


2. 徳山下松港の利用状況

● 徳山下松港の取扱貨物量

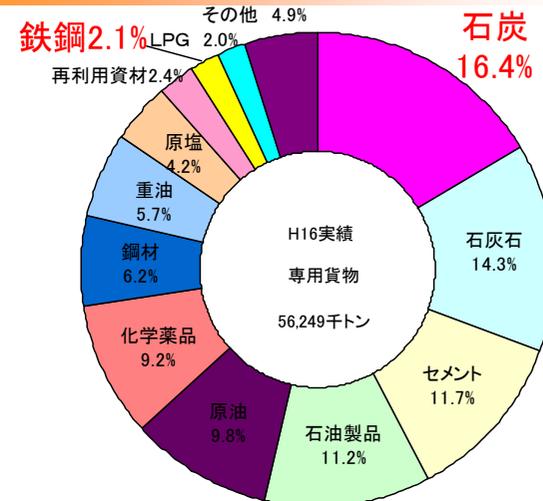
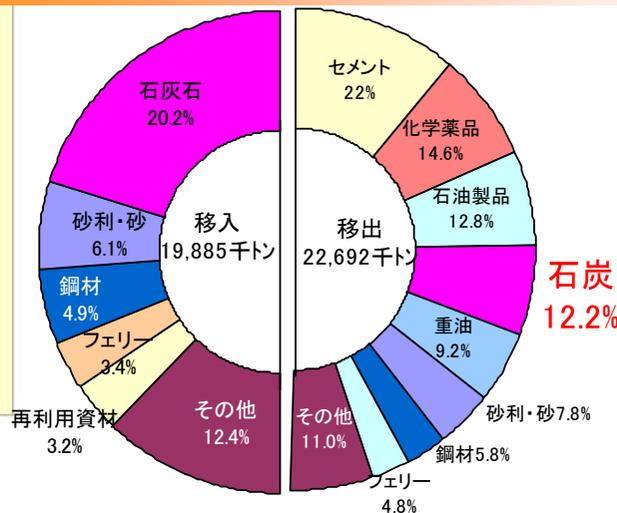
外国貿易取扱貨物量

公共取扱貨物量



内国貿易取扱貨物量

専用取扱貨物量



●新南陽地区多目的国際ターミナル整備箇所



■ 評価対象施設

3.徳山下松港の課題

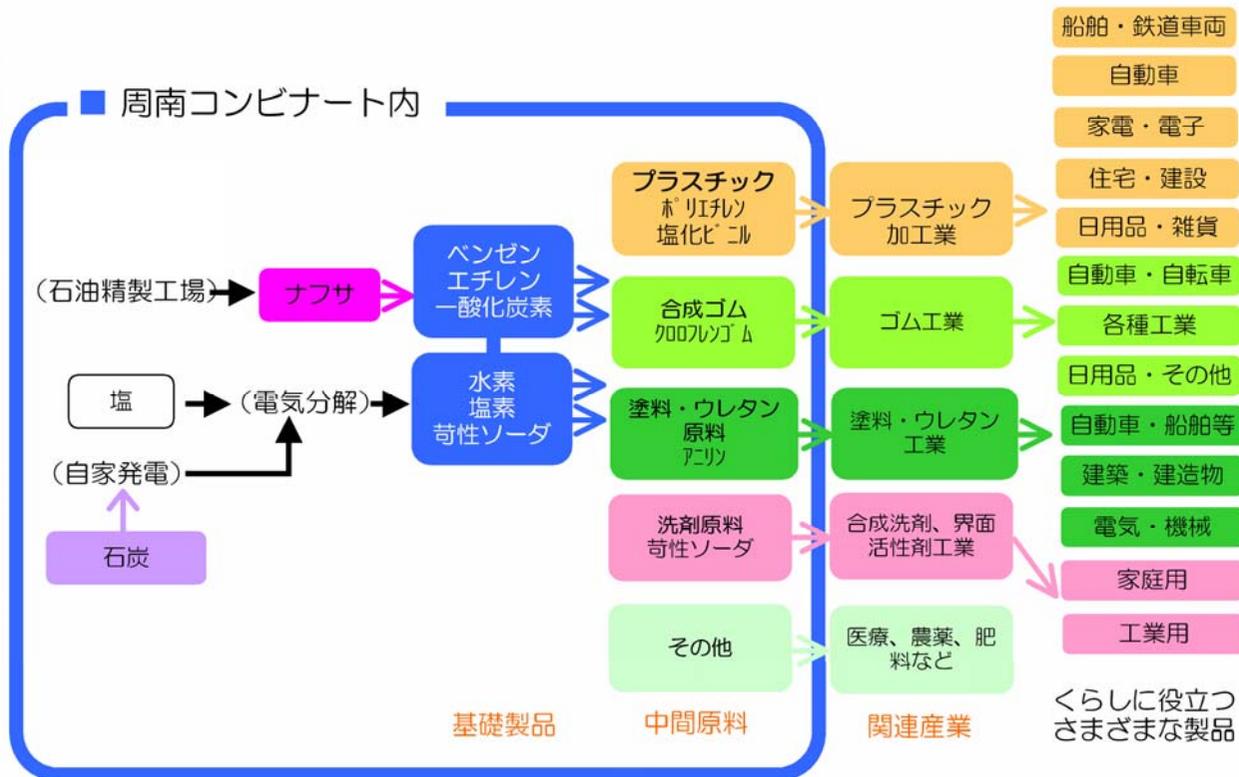
●係留施設及びふ頭用地不足（その1）

背後コンビナート企業群の生産力増強・増設

- 電力需要の増に伴い、新規石炭火力発電所の建設（2008年春）
- 燃料（石炭）取扱が新たに発生



火力発電所建設位置図



●心頭用地不足（その2）

緑地整備に伴い、鉄鋼(フェロクロム)を現在蔵置しているヤードから撤退が必要



● 港湾施設の水深不足

現況、石炭取扱施設は水深-9m、鉄鋼(710704)取扱施設は水深-10m
→ 高い物流コストを強いられ、近年、大型化している船舶への対応も困難

石炭取扱施設



鉄鋼(710704)取扱施設

